

南海トラフ巨大地震等に対する  
神戸学院大学の事業継続計画（BCP）  
【HP掲載用】

2026年6月 策定

# 1. 被害想定

本学が想定する南海トラフ巨大地震の被害想定の詳細については【別表1】を参照

# 2. 南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の行動指針（ガイドライン）

本学では、災害が発生した際に人的・物的被害を最小限にとどめながらも学校運営の継続を図るための行動指針として「南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の行動指針（ガイドライン）」（以下「行動指針」）を策定しています。

大規模災害発生後には、本学では災害対策本部を設置し初動の指示を出すことを想定していますが、その状況により、即時に初動の指示を行えない状況、または学生・保護者・教職員に指示が届かない状況に陥る可能性が想定されます。この行動指針は、万が一、大規模災害によりそのような状況に陥った場合への備えとして、事前に行動の指針を示すものです。

南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の行動指針（ガイドライン）

2025年6月19日 防火・防災対策委員会

活動・制限の内容	
KPC・KAC周辺地域における地震発生直後	<p>大学では災害対策本部を設置し初動の指示を出す。</p> <p>学生・教員等は、教室に掲げている「地震発生時の対応の手引き」に基づいてすぐに飛び出さずに、教室等建物内で待機して、大学からの指示に従うこと。KPCにおいては津波警報では2階以上、大津波警報は3階以上に避難し、火災発生が伴う場合は「火災発生時の対応の手引き」に基づいて行動すること。専任事務職員は、自衛消防活動に備えて大学の指示に従うこと。</p>

なお、KPC・KAC周辺地域で地震が発生していない場合でも、国から南海トラフ地震臨時情報が発令された場合は、下記の指針のとおりとする。

活動制限レベル	活動・制限の内容
レベル1（制限小）	<p>巨大地震への備えの再確認及び地震が発生したらずに避難するための準備をする。そのうえで各種活動（授業・研究・課外活動・合宿・イベント等）を実施する。</p>
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	
レベル2（制限大）	<p>巨大地震への備えの再確認及び地震が発生したらずに避難するための準備をする。また、地震発生後の避難では間に合わない可能性のある方は1週間の事前避難を行う必要があるため、国の指示に従い行動すること。安全のため、各種活動（授業・研究・課外活動・合宿・イベント等）の一時的な制限又は中止を検討し、大学の指示に従うこと。</p>
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	

活動制限レベル	活動・制限の内容					
	授業形態（対面/遠隔）	研究活動	課外活動他	イベント（式典・各種行事を含む）、学内会議	事務職員、教務職員等の勤務体制	構内の立ち入り
レベル3（制限大） 巨大地震発生後、また巨大地震が続く可能性が高く危険な状況	休講	巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に、研究機能の最低限の回復維持を目的に必要なエリアでの一時的な立入にとどめる（危険物の管理、データ喪失の回避、サーバー維持、生物の世話など）	全面禁止	延期または中止する。	各キャンパスの保安・保全・被災者対応等、業務管理上必要最小限の業務を行う。	入構禁止
レベル2（制限中） 巨大地震発生後、概ね一週間程度が経過しているが、インフラの回復が見込めない状況又は多数の帰宅困難者がいる状況	休講	自宅での研究を推奨するが、代替手段もなく、重要もしくは緊急に実施すべき実験・研究等は、巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に実施する。また、学内滞在時間をできる限り減らす。	原則、全面禁止（オンラインミーティングの推奨）	原則、延期または中止する。（オンライン会議の推奨）	巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に、時差勤務・在宅勤務・交代勤務体制等で最低限必要な業務を優先して実施する。業務を継続するため、一部業務の遅滞、事後処理を許可する。	原則、入構禁止
レベル1（制限小）	基本的に遠隔授業等を推奨するが、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、実験・実習・論文指導等対面が必要な科目は、対面授業を実施することができる。	構内において研究活動を行う場合は、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に実施することができる。	原則、全面禁止（オンラインミーティングの推奨） 但し、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、一部の活動を認めることができる。	原則オンラインによる実施を推奨する。 巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、対面会議は必要最小限で実施することができる。	巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、時差勤務・在宅勤務・交代勤務体制等で通常業務を実施する。業務を継続するため、一部業務の遅滞、事後処理を許可する。	原則、入構禁止。巨大地震への対策に注意を払うことを前提に一部の許可された施設の使用を認める。

※本行動指針はあくまでも指針として示すものであり、状況を総合的に検討したうえで、措置の変更や上記にない措置を判断することがありうる。  
※南海トラフ巨大地震のみではなく、これに類する大規模災害はこの行動指針（ガイドライン）に準拠する。

HP掲載 URL : <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/bcp/>

### 3. 南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の事業継続計画（BCP）

#### 3-1. 基本的な方針について

南海トラフ巨大地震等の大規模災害が発生した場合、本学では災害対策本部が立ち上がります。「南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の事業継続計画（BCP）」（以下、「事業継続計画」）は、災害対策本部のもとで「学生及び教職員の安全確保」、「法人資産の保全」、「各事業の早期復旧」を適切に対応することを基本的な方針として策定します。

#### 3-2. 「学生及び教職員の安全確保」及び「法人資産の保全」について（初動対応）

南海トラフ巨大地震等の大規模災害が発生した初日については、災害対策本部のもとで「学生及び教職員の安全確保」及び「法人資産の保全」を以下のとおり対応することを想定しています。

「学生及び教職員の安全確保」及び「法人資産の保全」（初動対応）	
南海トラフ巨大地震等の 大規模災害発生時  (災害対策本部設置)	<p><b>身の安全確保及び避難路の確保の指示</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業を担当している教員は、地震発生時の手引き（各教室に掲げているピンク色の手引き【資料1】）の①及び②を読み上げて、受講学生に身の安全確保及び避難路の確保の指示をする。</li><li>・ 中央監視室においても構内放送で地震発生時の手引き（各教室に掲げているピンク色の手引き【資料1】）の①及び②を読み上げて、身の安全確保及び避難路の確保の指示をする。</li><li>・ 中央監視室の構内放送による待機指示（飛び出して2次被害にならないようにその場で待機するよう指示）</li></ul>
揺れが落ち着いたら	<p><b>自衛消防隊の参集</b></p> <p><b>危険個所の把握及び構内放送による待機指示の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 倒壊やガス漏れ・火災発生等の危険個所の確認及び復旧</li><li>・ 外部被害状況の情報収集</li><li>・ 中央監視室の構内放送により待機する学生及び教職員に随時情報を提供し、落ち着いて継続して待機するよう指示</li></ul>

<p>倒壊やガス漏れ・火災発生等の危険個所があれば</p>	<p><b>適切な避難誘導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二次災害の発生の防止のための学内放送による伝達</li> <li>・ 危険個所の影響を受ける学生及び教職員の避難誘導</li> </ul> <p><b>初期消火</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防署に連絡</li> <li>・ 小さな火災の場合は消火栓等で自衛消防隊が消火する。</li> <li>・ 消防署が繋がらず、天井まで達する火災や薬品による火災を確認した場合は、防火戸を閉めて退避する。</li> </ul>
<p>津波が発生しそうであれば</p>	<p><b>適切な避難誘導（津波）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波の到達予想時刻の放送</li> <li>・ 津波警報が発令された場合は各建物の2階以上に、大津波警報が発令された場合は各建物の3階以上に避難するよう指示する。</li> </ul>
<p>帰宅ができそうであれば</p>	<p><b>安否確認メール送信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットワークが動いていれば、学生及び教職員に安否確認メールを送信する。</li> </ul> <p><b>帰宅者対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各情報により帰宅可能の判断ができれば、帰宅キットを準備して、帰宅を促す。</li> </ul> <p><b>帰宅者安否確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰宅者に帰宅キットを配付する際に、安否確認メールに回答しているかを確認する。ネットワークの不具合により安否確認メールが送信できない場合は、帰宅者に紙に学籍番号と名前を記載してもらう。</li> </ul>
<p>帰宅が難しそうな方がいれば</p>	<p><b>帰宅困難者対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非常用トイレの設置（設置場所は【資料4】非常用トイレ設置マニュアル参照）</li> <li>・ 避難所運営（避難所運営は【資料5】避難所運営マニュアル参照）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災備蓄品の配給準備（防災備蓄品は【資料6】防災備蓄品配付マニュアル参照）</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>帰宅者困難者安否確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災備蓄品の配給の際に、安否確認メールに回答しているかを確認する。ネットワークの不具合により安否確認メールが送信できない場合は、帰宅者には紙に学籍番号と名前を記載してもらう。</li> </ul>
<p>帰宅困難者対応が落ち着けば 安否確認</p>	<p style="text-align: center;"><b>安否確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び教職員に送信した安否確認メール結果の確認</li> <li>・各部署及び各学部で協力して安否確認を継続</li> </ul> <p>学生：◎学生支援センター、国際交流センター、各学部長室</p> <p>教員：◎人事部、国際交流センター、研究支援センター、 各学部長室</p> <p>職員：◎人事部、国際交流センター、研究支援センター</p>

### 3-3. 「各事業の早期復旧」について

学生及び教職員の教育研究環境等の継続及び再開のため、部署別に非常時優先業務の想定を検討した結果を【別表2】に記載しています。非常時優先業務には、災害応急対策業務や早期実施の優先度が高い復旧・復興業務等に加えて、事業継続の優先度が高い通常業務が含まれます。

各部署においては、災害対策本部から指示がない場合においてもそれぞれの想定した非常時優先業務を確実に優先的に実施し、それ以外の通常業務は休止・縮小した上で、非常時優先業務に影響のない範囲で、順次再開を目指すこととします。

さらに状況に応じて、避難所運営など緊急度が高い業務について災害対策本部から指示があった場合は、各部署はそれぞれの想定した非常時優先業務に加えて部署の垣根を越えてそれらの業務に協力いただくこととなります。

<p>「各事業の早期復旧」</p>	
<p>非常時優先業務</p>	<p style="text-align: center;"><b>非常時優先業務の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時優先業務ごとに業務開始目標時間を設定</li> </ul> <p style="text-align: center;">【別表2】を参照</p>

	<p>・各事業の早期復旧のために必要とされる重要書類等については、各部署で定めた【別表3】緊急時持出し品リスト（部署別）を参照</p>
--	---

## 4. その他

### 4-1. 災害対策本部について

神戸学院大学災害対策本部運営要綱を参照

### 4-2. 緊急出動体制・各学部及び各部署の専任職員の任務について

神戸学院大学防火・防災管理規程第14条・第15条、神戸学院大学災害対策本部運営要綱第7条を参照

### 4-3. 安否確認体制

危機管理基本マニュアルを参照

### 4-4. 緊急連絡網

神戸学院大学防火・防災管理規程別表第1及び第2を参照

### 4-5. 外部緊急連絡先

危機管理基本マニュアルを参照

## 5. 参考資料

【別表1】被害想定

【別表2】各部署非常時優先業務一覧表

【別表3】緊急時持出品リスト（各部署）

【資料1】火災・地震発生時の対応の手引き（各教室に掲げているピンク色の手引き）

【資料2】神戸学院大学防火・防災管理規程

【資料3】神戸学院大学災害対策本部運営要綱

【資料4※】非常用トイレ設置マニュアル

【資料5※】防災備蓄品配付マニュアル

【資料6※】避難所運営マニュアル

危機管理基本マニュアル・・・学内情報サービスにて掲載

事象別危機管理マニュアル（学生編・教職員編）・・・学内情報サービスにて掲載

※の資料は現在検討中

-----

# 被害想定

# 【別表1】

## 【1】想定する自然災害

「事業継続計画」を策定するにあたって想定する被害・状況は、兵庫県が公表している「南海トラフ巨大地震津波被害想定（平成26年6月）」を参考としています。

項目	想定
想定災害	南海トラフ巨大地震（マグニチュード9級）KAC、KPCI・2の拠点である神戸市は震度6強の揺れが想定される。
発災条件	<p>【状況】 通常授業時の午前10時30分、                      KPCI・2：学生約2,500人、教職員約300人                      KAC：学生約2,500人、教職員約300人</p> <p>【天候】 雨、気温10度</p> <p>【その他】 安全の確保はできた後を想定する。                      KPCI・2に関しては津波・液状化の影響はなし（神戸市の想定より）。                      神戸大橋・トンネルに関しては1日目通行止め、2日目以降は通行可能とする。</p>

### (1) 想定される被害・状況

項目	想定される被害・状況	【参考】兵庫県・神戸市想定被害
人的被害	<p>【KPCI・2】 死者0名、負傷者3名、重傷者0名                      【KAC】 死者0名、負傷者3名、重傷者0名                      ※転倒物等による負傷を想定</p>	<p>[神戸市]                      死者 9,344 人                      負傷者 5,902 人                      重傷者 1,331 人</p>
建物被害	<p>【KPCI・2】 倒壊なし                      【KAC】 倒壊なし                      ※耐震補強工事済み及び新耐震基準のため、震度6強でも倒壊はしないと想定</p>	<p>[神戸市]                      全壊棟数 3,109 棟</p>
津波・液状化被害	<p>【KPCI・2】 津波・液状化の影響なし                      【KAC】 津波・液状化の影響なし</p>	<p>[神戸市]                      全壊棟数 762 棟</p>
上水道	1週間程度断水の可能性有	<p>[兵庫県]                      1日目約70万人                      2日目約42万人                      1週間後約16万人</p>
下水道	1週間程度断水の可能性有	<p>[兵庫県]                      1日目算出困難                      2日目約195万人                      1週間後約192万人</p>
電力	2日間程度停電の可能性有	<p>[兵庫県の停電]                      1日目 約113.5万軒                      2日目 約4.0万軒                      1週間後 0軒</p>
都市ガス	供給停止の危険性なし	<p>[神戸市]                      建物の全半壊に起因する供給停止は、市内で12,830軒</p>

<p>固定電話</p>	<p>発災当日は回線の幅輾と通信規制等により利用できない可能性有</p> <p>【学外停電の場合】 外線、内線、ともに利用不可</p> <p>【学内のみ停電の場合】 外線：バッテリーが有効な時間利用可（4時間程度） 内線：バッテリーが有効な時間利用可（4時間程度）</p> <p>※ただし、A号館4階サーバー室内のメディアコンバーター（バッテリー無）を設置して、KACとのネットワークを構築しているため、KPC⇄KACの内線は利用不可</p> <p>・MCAをKAC1台（総務G）、KPC1に2台（総務G、人事G）配置 ※MCAサービスは2029年廃止予定</p>	<p>[兵庫県の不通回線数]</p> <p>1日目 約57,000回線 2日目 約51,000回線 1週間後約6,000回線</p>
<p>スマートフォン</p>	<p>発災当日は回線の輾輳により利用できない可能性有</p>	<p>[神戸市]</p> <p>不通ランクB （つながりにくい） 2日目はほぼ平常状況になる。</p>
<p>インターネット通信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス内で停電が発生した場合はインターネット通信および情報システムが利用できない</li> <li>・主なサーバーはNTT神戸データセンター内に設置しているが、一部の事務システム（認証、ファイルサーバ等）は各キャンパス内にあり、特に有瀬キャンパスにおいては耐震性が不十分で、被害を受けた際に復旧までに時間がかかることが想定される</li> <li>・キャンパスとデータセンター間を繋ぐ専用回線が被害を受けた場合に備えた代替の外部回線が確保できていない</li> </ul>	<p>※参考資料に記載なし</p>
<p>道路</p>	<p>沿道では建物やブロック塀、電柱等の倒壊、山地・丘陵部では落石・崩土が生じて道路閉塞が発生し、車両通行の阻害が想定される。安全確認後、順次部分開通するが、一部道路では、復旧に長時間要することも想定される。</p>	<p>[神戸市]</p> <p>道路被害 268箇所道路</p>
<p>鉄道</p>	<p>架線や電柱被害、線路の変形等の被害が生じる。また、施設に被害がなくても強い揺れが原因で、鉄道各社の運行停止が想定される。安全確認後、順次部分運行は再開されるが、一部路線では、復旧に長時間要することも想定される。</p>	<p>[神戸市]</p> <p>鉄道被害 262箇所線路</p>
<p>帰宅困難者</p>	<p>公共交通機関の運行停止により、遠距離通勤者の多くは帰宅が困難になる。</p> <p>KPC1・2については、神戸大橋が通行止めになった場合、学生・教職員が帰宅困難になることが想定される。</p>	<p>[神戸市]</p> <p>帰宅困難者 239,579人</p>

K P C ○号館用

落ち着いて行動してください。

火災発生時は

**火災発生時の対応の手引き**

に基づき学生に指示してください。



地震発生時は

**地震発生時の対応の手引き**

に基づき学生に指示してください。





非常時以外  
持ち出し禁止

## 火災発生時の対応の手引き…（地震発生時の火災も含みます）

緊急時に備え、非常口、非常電話、対処法について、日頃からご確認ください。

火災、地震などの**緊急事態**が発生した場合は、**自らの身の安全を守ると同時に、安全が確認できるまで、授業、実験などをただちに中止し、次のように対応していただきますようお願いいたします。**

### ①通報

学生に指示しながら以下の要領で通報してください。

- ・大声で近くの教室に知らせてください。
- ・火災報知器が感知する前であれば、非常ベルを押してください。
- ・学内用非常電話に連絡してください。（負傷者がいた場合も連絡してください。）

**【学内用非常電話】 KPC 内線70119**

### ②初期消火

- ・身の安全確保を第一として、決して無理をせず、出火して間もない、小さな火の場合に限り、各所に設置してある消火器を使用し初期消火にあってください。
- ・火元の周囲の可燃物を取り除いてください。
- ・類焼や延焼を防ぐため、戸や窓を閉めてください。

### ③避難及び避難誘導（避難経路は各教室の壁に掲示しています）

- ・火元より下の階にいる時：あわてずゆっくり出入口の階段を使って避難してください。
- ・火元より上の階にいる時：出来るだけ火元から横方向に逃げ、そこから階段で避難してください。
- ・現場の状況を目視または学内非常放送などにより的確に把握してください。
- ・非常口から避難するよう指示し、第一次避難場所へ誘導してください。
- ・避難にあたっては、エレベーター、エスカレーターは使用せず、出口や階段などに殺到することがないように呼びかけてください。特に身体の不自由な学生については、まわりの学生に補助するよう指導してください。

### ④避難誘導完了後

- ・第一次避難場所で待機し、指示があるまで学生を集めておいてください。

#### <注意事項>

- ・実験室など化学薬品のある場所では、爆発などの恐れがあるので、十分注意し、現場に詳しい人が消火にあってください。
- ・大きな炎が発生し、煙が充満した場合は、水でぬらしたハンカチなどで口をふさぎ、煙を吸わないようにし、姿勢を低くして非常口から避難するよう学生に指示を与えてください。（**人命第一**をお願いします。）
- ・人体に火がついた場合は、大声で人を呼び大量の水をかけてもらってください。周囲に人がいない場合は、床を転がるなどして擦り消してください。
- ・火が天井などに引火したら、手元の消火器ではまず消火は無理なので、早急に避難してください。

《第一次避難場所は裏面》

第一次避難場所



この教室の火災発生時の **第一次避難場所** は

第一次避難場所



**「キャンパスグリーン」** です



非常時以外  
持ち出し禁止

## 地震発生時の対応の手引き … (火災発生時は除きます)

緊急時に備え、非常口、非常電話、対処法について、日頃からご確認ください。

火災、地震などの**緊急事態**が発生した場合は、**自らの身の安全を守ると同時に、安全が確認できるまで、授業、実験などをただちに中止し、**次のように対応していただきますようお願いいたします。

揺れを感じたり、緊急地震速報が鳴ったら、学生、来訪者に対し以下のとおり指示、誘導してください。

### ①身の安全の確保

- ・物品などの落下、転倒から身を守るため、戸棚、ロッカー、窓、ガラスの近くから離れるよう指示、誘導してください。
- ・頭を保護して最寄りの机の下にもぐり、揺れに備える姿勢をとるよう指示、誘導してください。
- ・たばこ、ガス、電気機器のスイッチなど、火元の始末を速やかに行うよう指示、誘導してください。
- ・負傷者がいる場合は、学内用非常電話に連絡してください。

**【学内用非常電話】 KPC 内線70119**

### ②避難路の確保

- ・ドアを開け、避難路を確保してください。

### ③避難及び避難誘導（避難経路は各教室の壁に掲示しています）

**揺れがおさまった後、指示があるまで待機し、指示に従い避難誘導してください。**

- ・現場の状況を目視または学内非常放送などにより的確に把握してください。
- ・非常口から避難するよう指示し、第一次避難場所へ誘導してください。
- ・避難にあたっては、エレベーター、エスカレーターは使用せず、出口や階段などに殺到することがないよう呼びかけてください。特に身体の不自由な学生については、まわりの学生に補助するよう指導してください。

### ④避難誘導完了後

- ・第一次避難場所で待機し、指示があるまで学生を集めておいてください。

《 第一次避難場所は裏面 》

第一次避難場所



※津波警報が発令された場合

- ・津波警報(3m までの津波予想)

緊急放送などの指示に従い、各建物の 2 階以上に避難誘導してください

- ・大津波警報(3m を超える津波予想)

緊急放送などの指示に従い、各建物の 3 階以上に避難誘導してください

この教室の地震発生時の **第一次避難場所** は

第一次避難場所



**「キャンパスグリーン」** です

**火災のない地震発生時は、指示があるまで教室で待機**してください

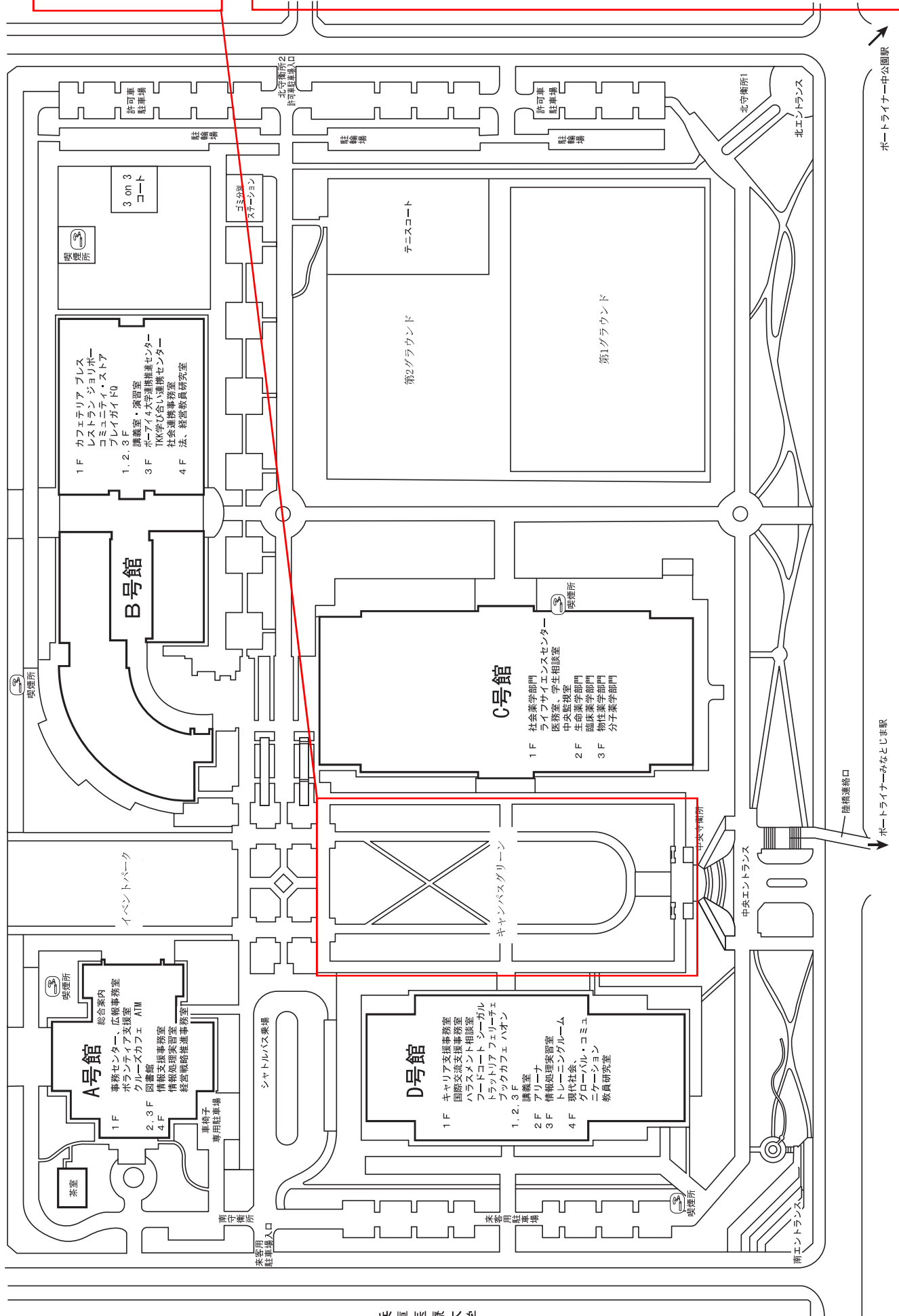
# ポートアイランドキャンパス (KPC) 校舎配置図

(喫煙所に関しては2016年2月現在の情報です)

この教室の  
第一次避難場所  
はこちらです。

## KPC第一次避難場所

A号館：「イベントパーク」、B号館：「イベントパーク・第2グラウンド」、  
C号館：「第1グラウンド」、D号館：「キャンパスグリーン」



## K A C    〇号館用

落ち着いて行動してください。

火災発生時は

### 火災発生時の対応の手引き

に基づき学生に指示してください。



地震発生時は

### 地震発生時の対応の手引き

に基づき学生に指示してください。







非常時以外  
持ち出し禁止

## 火災発生時の対応の手引き…（地震発生時の火災も含みます）

緊急時に備え、非常口、非常電話、対処法について、日頃からご確認ください。

火災、地震などの**緊急事態**が発生した場合は、**自らの身の安全を守ると同時に、安全が確認できるまで、授業、実験などをただちに中止し、次のように対応していただきますようお願いいたします。**

### ①通報

学生に指示しながら以下の要領で通報してください。

- ・大声で近くの教室に知らせてください。
- ・火災報知器が感知する前であれば、非常ベルを押してください。
- ・学内用非常電話に連絡してください。（負傷者がいた場合も連絡してください。）

**【学内用非常電話】 KAC 内線49119**

### ②初期消火

- ・身の安全確保を第一として、決して無理をせず、出火して間もない、小さな火の場合に限り、各所に設置してある消火器を使用し初期消火にあってください。
- ・火元の周囲の可燃物を取り除いてください。
- ・類焼や延焼を防ぐため、戸や窓を閉めてください。

### ③避難及び避難誘導（避難経路は各教室の壁に掲示しています）

- ・火元より下の階にいる時：あわてずゆっくり出入口の階段を使って避難してください。
- ・火元より上の階にいる時：出来るだけ火元から横方向に逃げ、そこから階段で避難してください。
- ・現場の状況を目視または学内非常放送などにより的確に把握してください。
- ・非常口から避難するよう指示し、第一次避難場所へ誘導してください。
- ・避難にあたっては、エレベーター、エスカレーターは使用せず、出口や階段などに殺到することがないように呼びかけてください。特に身体の不自由な学生については、まわりの学生に補助するよう指導してください。

### ④避難誘導完了後

- ・第一次避難場所で待機し、指示があるまで学生を集めておいてください。

#### <注意事項>

- ・実験室など化学薬品のある場所では、爆発などの恐れがあるので、十分注意し、現場に詳しい人が消火にあってください。
- ・大きな炎が発生し、煙が充満した場合は、水でぬらしたハンカチなどで口をふさぎ、煙を吸わないようにし、姿勢を低くして非常口から避難するよう学生に指示を与えてください。（**人命第一**をお願いします。）
- ・人体に火がついた場合は、大声で人を呼び大量の水をかけてもらってください。周囲に人がいない場合は、床を転がるなどして擦り消してください。
- ・火が天井などに引火したら、手元の消火器ではまず消火は無理なので、早急に避難してください。

《第一次避難場所は裏面》

第一次避難場所



この教室の火災発生時の **第一次避難場所** は

第一次避難場所



**「第1グラウンド」** です



非常時以外  
持ち出し禁止

## 地震発生時の対応の手引き … (火災発生時は除きます)

緊急時に備え、非常口、非常電話、対処法について、日頃からご確認ください。

火災、地震などの**緊急事態**が発生した場合は、**自らの身の安全を守ると同時に、安全が確認できるまで、授業、実験などをただちに中止し、**次のように対応していただきますようお願いいたします。

揺れを感じたり、緊急地震速報が鳴ったら、学生、来訪者に対し以下のとおり指示、誘導してください。

### ①身の安全の確保

- ・物品などの落下、転倒から身を守るため、戸棚、ロッカー、窓、ガラスの近くから離れるよう指示、誘導してください。
- ・頭を保護して最寄りの机の下にもぐり、揺れに備える姿勢をとるよう指示、誘導してください。
- ・たばこ、ガス、電気機器のスイッチなど、火元の始末を速やかに行うよう指示、誘導してください。
- ・負傷者がいる場合は、学内用非常電話に連絡してください。

**【学内用非常電話】 KAC 内線49119**

### ②避難路の確保

- ・ドアを開け、避難路を確保してください。

### ③避難及び避難誘導（避難経路は各教室の壁に掲示しています）

**揺れがおさまった後、指示があるまで待機し、指示に従い避難誘導してください。**

- ・現場の状況を目視または学内非常放送などにより的確に把握してください。
- ・非常口から避難するよう指示し、第一次避難場所へ誘導してください。
- ・避難にあたっては、エレベーター、エスカレーターは使用せず、出口や階段などに殺到することがないよう呼びかけてください。特に身体の不自由な学生については、まわりの学生に補助するよう指導してください。

### ④避難誘導完了後

- ・第一次避難場所で待機し、指示があるまで学生を集めておいてください。

《 第一次避難場所は裏面 》

第一次避難場所



この教室の地震発生時の **第一次避難場所** は

第一次避難場所

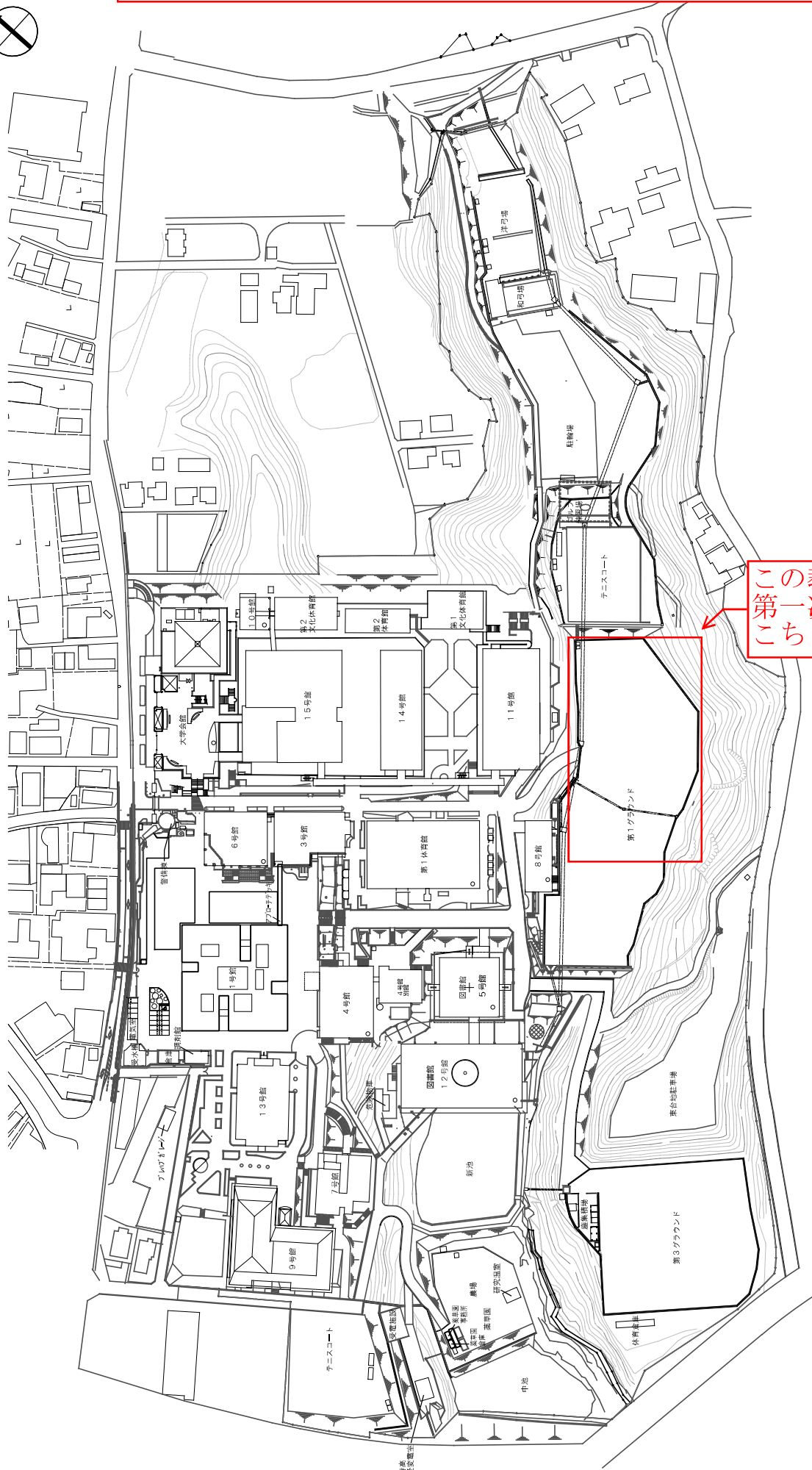


**「第1グラウンド」** です

**火災のない地震発生時は、指示があるまで教室で待機してください**

KAC第一次避難場所

- ・1号館、4号館、7号館、9号館、13号館、3号館、6号館：「広場（1号館前）」
- ・上記以外の建物：「第1グラウンド」



この教室の  
第一次避難場所は  
こちらです。